喜屋武朝章先生を偲ぶ

故 喜屋武 朝章 先生

喜屋武朝章先生が去る8月25日に逝去された。長年の親友を失い悲しみに耐えない。先生を偲び在りし日の面影を書いてみたい。

[先生の略歴] 大正12年（1923）誕生、お父上は首里の由緒ある士族の出身、県立二中を卒業、旧制水戸高校を経て、九大学医学部に進学、昭和23年9月卒業、九大医学部第三内科に入局、同大学で研鑽を積まれ、昭和26年同内科桝屋富一助教授が九大から鹿児島大学医学部第一内科教授に就任されたとき、喜屋武先生は桝屋先生とともに鹿児島大学医学部講師として赴任された。鹿児島大学では診療、研究、教育に多忙を極められたとのことである。昭和28年1月桝屋教授ご夫婦の媒酌で大城延子さんと結婚、円満な家庭を築かれ、二人の男児に恵まれた。昭和32年鹿児島大学を退任され帰郷、34歳の若さで沖縄赤十字病院院長に就任された。赤十字病院では診療内容の充実向上、諸設備の整備、職員特に看護婦の教育養成に力を尽くされるなど、数々の功績を上げられ、一年余の赤十字病院勤務を辞して、昭和33年6月那覇若狭大通りに三階建29床の喜屋武内科を開設された。名医で評判の高い先生は多忙を極められた。金武、本部半島まで往診され、朝の開院に間に合わせるため午前3時に病院を出発されたという。患者さん方に対する温かい行き届いたご配慮にはただ頭が下がるばかりである。先生に対する患者さんの信頼が絶大であるのも宜なるかなである。

[医師会活動] 先生は多くの役職につかれ立派な業績をあげられた。消化器内視鏡会、内科医会、循環器科医会、プライマリ・ケア研究会等の設立、内科医会会報の発行に主導的役割を果たされた。沖縄内科医会長を十数年間歴任され、日本集団検診学会沖縄大会会長も勤められた。本県に医療保険が導入された時は県医師会の担当理事として、その受け入れ体制作りに尽力され、社保の審査委員長を長年勤められた。

平成9年に沖縄医学会長になられたが、残念ながらご病気で一年間で退任された。

［表彰］　先生は数々の表彰を受けられた。そのうち特記すべきものをあげると叙勲、勲五等瑞宝賞、日本医師会最高優功賞、沖縄県医師会功労賞、那覇市政功労者表彰等である。

［海外旅行］　昭和52年銀婚式を記念してご夫婦でアメリカ、ハワイへ旅行された。ヨーロッパの四大都市、ロンドン、ローマ、ジュネーブ、パリの旅にはご兄弟ご親戚の方々もご一緒に参加されたとのことである。先生は奥様とお二人で自分史“二人三脚の歩み”を書いておられる、まことに楽しい素晴らしい自分史である。

［沖縄寮歌祭－大学の歌祭り］　旧制高校の卒業生が中心になって、各国立大学、私立大学の卒業生や家族も含めて、毎年2月に寮歌祭を開催しているが、他府県からの参加も多く盛大である。先生は毎年積極的に参加され水戸高校同窓生の先頭に立って大いに高唱謳歌しておられた。

［先生との思い出］　喜屋武先生、稲福全三先生と私の三人は日本内科学会総会に揃って参加した。これは20年位続いたが楽しい思い出が沢山ある。那覇市医師会報2010夏季号に掲載させて頂いた京都吉兆の一夕の宴は格別で忘れられない。

［スポーツ］　先生はゴルフを愛好され、一水会や医師会のゴルフ大会にはいつも奥様とお二人で仲良く参加された。私はゴルフをやらないのでゴルフの楽しさ、醍醐味は知らないが、先生の腕前は相当なものだと伺っている。

誠実、温厚、寛容なお人柄でマフラーを巻いた上品な白髪の温顔、英姿が今でも目に浮かぶ。お二人のご令息も医師として立派な活動をしておられる。喜屋武先生、どうぞ安らかにお休みください。

古波倉医院　古波倉　正照